

2024. 7. 2



～通知表の見方について～



通知表は、学習の状況、学級・生徒会活動、部活動、出席状況等、学校での生徒の様子をお知らせし、保護者と学校の連携を図ることにより、生徒の一層の成長を願って作成しています。

学力については知識の量のみでとらえるのではなく、「基礎・基本を確実に身につけること」と「自ら学び自ら考える力」や「豊かな人間性」なども含め、どのように社会が変化しても必要なものとなる「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえることが求められています。

育成すべき資質・能力の三つの柱

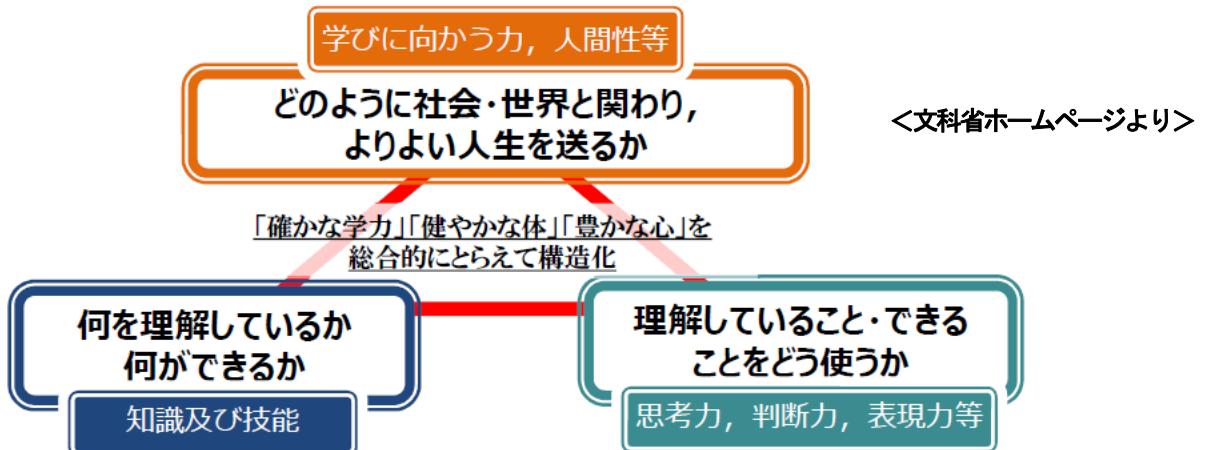
～学校は、社会と切り離された存在ではなく、社会の中にあります～
学習指導要領は、グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質や能力について見直しを行っています。

そのため、『資質・能力の三つの柱』に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、評価の観点について下記の3観点に整理されています。

育成すべき資質・能力の三つの柱



学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。



かくきょうか ひょうか かんてん
各教科の評価の観点について

ちしき ぎのう
知識・技能

かくきょうかとう ちしきおよ ぎのう しゅうとくじょうきょう ひょうか
○各教科等における知識及び技能の習得状況について評価します。
○それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学
習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得し
たりしているかを評価します。

しこう はんだん ひょうげん
思考・判断・表現

かくきょうかとう ちしきおよ ぎのう かつよう かだい かいけつ ひつよう
○各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な
思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

しゅたいてき がくしゅう
主体的に学習に
とく りくみ たいど
取り組む態度

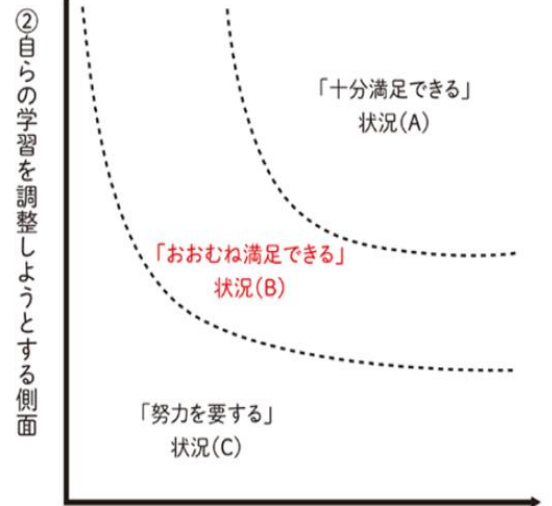
ちしきおよ ぎのう かくとく しこうりょく はんだんりょく ひょうげんりょくとう みつ
①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付け
たりすることに向けた粘り強く取り組む態度を評価します。
②自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど
自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

しゅたいてき がくしゅう とく りくみ たいど
「主体的に学習に取り組む態度」とは

①知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に
につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
と、
②この粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようと
する側面、という二つの側面から評価します。

※これら①②の姿は、実際の教科等の学びの中では、別々で

わかりやすくいうと…



①粘り強い取組を行おうとする側面

★学習のなかで、自分自身が「何が分かって、何が分かっていないか」を把握し、どのように学習をしていくか、
粘り強く試行錯誤したり友だちや先生に訊いたりして、分かるようとしているかということです。

この力をつけるために、柘植中学校では、各教科等の授業を行う際に、「①学習の見通しを持つ →
②まず自分で考える → ③グループやペアで考える（学びを深める） → ④全体で確認する（自分で考えた
ことや、グループで考えたこと） → ④振り返りをする（何が分かって何がわからなかったのか）」という
学習の流れを積極的に取り入れた授業を行っています。

りめん
～裏面につづく～

